

# グリーン四国

No.1230  
2022年  
9月号

## 災害対応力の強化に向けて 防災訓練を実施

【詳細は2頁】

上勝町山犬嶽

### 目次

- ・災害対応力の強化に向けて防災訓練を実施…………… 2
- ・獣害による植栽困難地に対する現地検討会を開催…………… 3
- ・各署等のたより…………… 4



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

## 災害対応力の強化に向けて防災訓練を実施

〈局企画調整課〉

四国森林管理局では、防災の日である9月1日に防災訓練を行いました。災害対応を迅速かつ適切に行うためには、学習や訓練などを通じて、職員の防災意識を高めるとともに組織としての災害対応力を維持、強化していくことが重要です。今回の訓練は、南海トラフ大地震の発生を想定し、①参集職員の徒歩等参集訓練、②災害対策本部設置訓練、③地震の揺れから身を守る訓練（シエイクアウト訓練）、④災害対策本部運営訓練、⑤衛星電話を活用した導通確認訓練の5つの内容で行いました。

（参集職員の徒歩等参集訓練）

当局では、一定規模以上の地震が発生した際は、災害対応に優先的にあたる非常参集要員が直ちに当局庁舎に参集することとしています。今回の訓練では、午前7時に非常参集要員へ一斉招集メールを送信し、各非常参集要員が局への参集を行いました。参集にあたっては、各非常参集要員には、自治体のハザードマップ等を参考に、地震被害や津波によ

る浸水などを想定してルートを選定してもらったこととし、全員問題なく参集を行うことができました。

（災害対策本部設置訓練）



災害対策本部設置訓練の様子

また、南海トラフ地震などの大災害が発生した際は、大会議室等に災害対策本部を設置し対応にあたることとしています。この訓練では、速やかに災害対策本部を設置する手順を確認するため、訓練参加者がマニュアルを参照しながら机、椅子、パソコン、電話などの設営を行いました。

（地震の揺れから身を守る訓練（シエイクアウト訓練））



シエイクアウト訓練

また、自治体や学校でも広く実施されている「地震の揺れから身を守る訓練（シエイクアウト訓練）」を、高知県の同訓練の実施時刻に合わせて午前10時に行いました。訓練では、本局職員を対象として、放送が流れる間強い揺れが続いているという想定で、職員各自が身を守る行動を取りました。この訓練は多くの職員が参加でき、防災意識を高める効果も期待できますので、改善を図りながら引き続き実施してまいります。

（災害対策本部運営訓練）

午後からは、災害対策本部における様々な対応の手順を確認するため、災害対策本部運営訓練を行いました。この訓練は、①各森林管理署

等から職員の安否情報等を聞き取る「情報収集演習」、②管内において発生した事案への対応策の協議、指示伝達を行う「事案対応演習」、③デジタル技術を災害対応に活用するための山地災害調査アプリを活用した「情報収集演習」の3つの内容で行いました。特に③については今年度新しく取り組んだ内容で、林野庁が開発した同アプリを活用して、災害現場に見立てた署庁舎等の写真を専用サイトに登録し、これを局災害対策本部等で確認するという手順を確認しました。実際の災害対応においては、様々な事案対応や作業が発生することが考えられますので、デジタル技術も活用しながら効率的な対応ができるよう準備を進めてまいります。



災害対策本部運営訓練において情報を共有



山地災害調査アプリを活用した現場映像の確認

（衛星電話を活用した導通確認訓練）

訓練の最後には、各森林管理署等に配備している衛星携帯電話の通信状況や操作方法について確認するための導通確認訓練を行い、おおむね良好な通信が確認できました。

（最後に）

当局では、今回実施した防災訓練などの経験も踏まえて、災害対応体制や手順を随時見直していくとともに、引き続き、職員だけではなく、地域の安全・安心の確保に向けて、このような防災訓練を広く企画、実施し、組織や職員の災害対応力の強化につとめてまいります。

## 獣害による植栽困難地に対する現地検討会を開催

〈高知中部森林管理署〉

高知中部森林管理署管内では、シカによる被害が多く発生することと同時に、林地傾斜35度以上の急峻な地形が多くシカ防護ネットの設置が困難な箇所が多いことから、基本的に単木保護による植栽を実施してきました。しかしながら近年更新地においてシカによる被害が増加し、食害が原因により表土が流出したことによる山腹の小崩壊等が多く見られる状況となっております。

このことから、7月25日に獣害により表土が流出した更新箇所への今後の対策等を検討する「植栽困難地対策検討会」を開催しました。

当日は、当署の事業担当職員に加えて四国森林管理局森林整備課、計画課および治山課から23名の参加による検討会となりました。まず、実際の現地を数カ所確認し、単木保護のみでの植栽箇所とシカ防護ネットのみでの植栽箇所の林地状況の比較や、1年前からの林地状況の変化について当署の森林育成担当者から説明を行い、現地に対する質問や意見交換を実施しました。その後、署の

会議室において①表土が流出している林分への対策②森林調査簿への計上方法等③今後更新が発生する林分への施業方法を議題として意見交換を行いました。



遠望による現地確認

様々な意見が出る中で、「表土の流出状況によっては山腹への吹付工等治山工事の施工が必要になる」「森林調査簿は現地の状況を確認し乖離が発生していれば修正を行うこと」「母樹が周辺に存在する場合は天然更新を検討する」「画一的な森林整備でなく、獣害対策を含めた植付から下刈り等までのトータルコストの軽減、且つ適正な森林整備となるように林地毎に現地の状況を十分に確認し柔軟な施業を実施すること」等の意見が出されました。



植栽後の様子

検討会では抜本的な対策は見いだされませんでした。今後とも局署等で連携し林地状況に応じた柔軟な獣害対策や適正な森林整備に取り組みることとしています。また、このような状況の林分での対策を講じた場合には、市町村等の民有林施業にも役立てられるよう広く情報を提供していきたいと考えています。



署内で検討

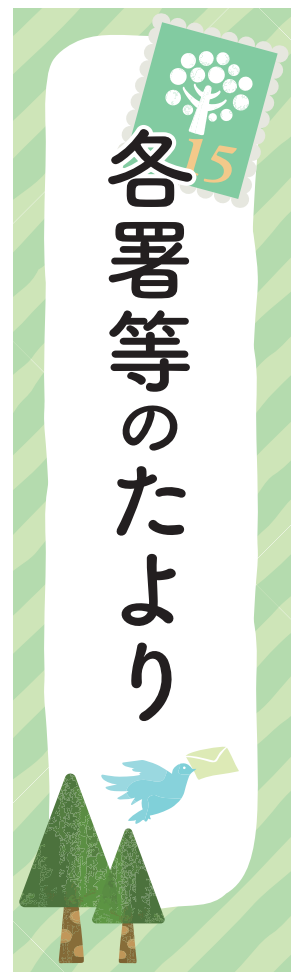
## 石手川ダムで「自然と遊ぼうDAY」を開催

〈愛媛森林管理署〉

石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会が主催するイベント「自然と遊ぼうDAY！」が、7月28日、松山市の石手川ダム「せせらぎ公園」で開催されました。

本イベントは、自然とのふれあいによる心身のリフレッシュや森林・ダム的重要性への理解を目的とした「森と湖に親しむ旬間」（7月21日～7月31日）（国土交通省、農林水産省等の共催）の取組として毎年実施しています。

当日は、松山河川国道事務所、松山市、愛媛大学、松山東消防署、愛媛森林管理署がイベントを連携して企画し、夏休み中の小学生とその父兄23家族が水生生物の探索、木工品の製作、丸太切り、水難救助教室などを体験しました。



「マンカラ」の作成方法を説明する署の職員



丸太切りを体験する小学生



水生生物の探索

当署からは藤平康則署長をはじめ7名が参加し、「マンカラ」というボードゲーム作製や丸太切り体験の指導等を行いました。最初は子どもたちも慣れないノコギリに苦戦していたものの、すぐに慣れ、職員の手伝いがないまでも、難なく木が切れるようになりました。丸太切り体験では、お昼をまたいでも参加したいという子が後を絶たず、大盛況でした。こうした取組で一人でも多くの子どもたちが将来、林業や木材に携わる仕事に就いてくれればうれしいと考えております。



## 物部を彩る湖水祭が3年ぶりに開催

〈高知中部森林管理署〉

8月14日、高知県香美市物部町で3年ぶりに奥物部湖水祭が開催されました。今年で60回を迎えるこの祭りは毎年多くの観光客が訪れ、盆踊りや灯笼流し、花火を楽しんでいます。



花火と灯笼

祭始まりの歴史を遡れば、1956年に永瀬ダムが完成した後、それまで建設に携わっていた方々が転出したリ、職を求めて物部村を去る方も多くなり、人口流出対策に苦慮していたこのことです。その対策の一



灯籠

環として湖水祭が始まり、村の行事として取り上げられるようになった歴史があります。湖水祭は永瀬ダム建設で亡くなられた方々の慰霊と奥物部湖の安泰と上・下流域の五穀豊穰を祈願し、住民の親睦と交流人口拡大による地域の活性化を図るお祭りのことです。

「お山のディスコ」とも呼ばれた賑やかな盆踊りは、新型コロナウイルス感染症対策の観点から今年度は中止となりましたが、湖水を漂う5000個の灯籠と山間に響き渡る約500発の花火のコンビネーションは人々を魅了していました。



灯籠作り

奥物部湖（永瀬ダム）へ流れ込む大小支川10の内、9河川が国有林を源流としており、なじみも深く高知中部森林管理署としても、毎年祭りに協力を行っており、今年は職員4名が灯籠作りに参加しました。

5000個作るということもあり、祭りの1週間前に朝早くから、多くの地域住民が参加して灯籠作りに取り組みました。皆で祭りを盛り上げようとしている気持ちを感じ、湖水祭が毎年愛されているのは、地域の方々がこんなにも成功させようと思ってくれているからなのだと思います。また、その輪の中に入って一緒に作ることが出来てとても光栄だったと思います。

## とくしま林業アカデミー 第7期生のコンパス測量 実習を開催

〈徳島森林管理署〉

徳島森林管理署では、平成30年3月に徳島県、徳島森林づくり推進機構、四国森林管理局との間で締結された人材育成連携協定に基づき、人材育成に向けた取組を毎年実施しています。その取組として、7月11日、7月29日、8月19日にとくしま林業アカデミー第7期研修生22名を対象に、コンパス測量実習を開催しました。

はじめに、当署の地域林政調整官から開会の挨拶と日程説明、総括森林整備官がコンパスの据え方や測量方法の説明を行いました。その後、2班に分かれて、研修生が実習を行っているのとくしま林業アカデミーの裏山で、各班に署の職員2〜3名が指導者として付き、現場でのコンパスの据え方や使用上の注意点を指導しながら、実習用に設定してある14点の測点を測量しました。

研修生は、レーザ距離計搭載コンパスの扱いが初めてであったこともあり、ターゲットにレーザを当てるのに苦戦していました。回数を重ねることにレーザをターゲットに当

てることができるようになり、コンパスの据付もスムーズになってきたことも加わり測量が早くなっていました。



慣れないコンパスを据えている



コンパスの使用方法の説明



回数を重ねると測量の早さと精度が向上

午後からは、各班が測量したデータを基に製図を行いました。



各班で協力してデータ入力中

レーザーが測点のターゲットに当たらず、測点より約5m後方の枝や葉に当たったことで、図面が閉合しない班がありました。このように誤差が生じることがあるので、障害物がある場合などは巻尺を使って確認しながらより正確に測量する必要があります。また、そのことを再認識していました。

今回の実習では限られた時間ですべての測点を測量したため、後視を省きましたが、測量の精度を上げるためにも後視が必要であることを実感していました。

とくしま林業アカデミーへの支援は、今回実施したコンパス測量実習のほか、10月にドローン講習会（基礎・応用）を開催する予定です。

当署では、このような関係機関・団体等が取り組む人材育成について、今後とも積極的に支援していきます。



図面が閉合せず苦戦…

## 夏休みに小学校6校で 森林・木工教室を開催

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川森林ふれあい推進センターでは、四万十市役所子育て支援課、黒潮町との連携で、四万十市内の蕨岡小学校（8月3日）、竹島小学校（8月4日）、八束小学校（8月8日）、中筋小学校（8月17日）、大用小学校（8月26日）の5校、黒潮町内の三浦小学校（8月22日）の1校の計6校の放課後教室児童合計96名を対象にした森林・木工教室を小学校や地区の集会所で開催しました。

はじめに、林野庁×うんこドリル（森とくらし）という教材を使って、森林の役割について勉強しました。実施に当たっては、この中に登場するキャラクターの「うんこいぬさん」「うんこねこさん」に児童に交代でなってもらいスライドに映した質問内容を読み上げて答えてもらうという児童参加型スタイルを進めました。また、司会のうんこ先生（センター職員）が「これで解答（AかB）は良いですか」と尋ねると「こんなの簡単だ」という児童や「最後の問題がわからない」と反応は様々でした。

だが、みんな元気に手を挙げて応えてくれて、うんこドリルを楽しむことができました。

また、黒潮町立三浦小学校では、「つみのこども（高知県知事からの委嘱を受け、地域での地球温暖化防止の取組を推進している高知県地球温暖化防止活動推進員）」と三浦小学校と当センターの連携で、うみのこどもの中谷さんがスケッチブックに書いたイラストを使って、児童達に「森林が地球温暖化を防ぐためにどんな働きをしているかや木材が環境に優しい資源であること」について説明しました。

次はお楽しみ木工工作です。市などから要請を受けて毎年、夏休みには森林・木工教室を開催していますが今回は、「ハッピー小箱作り」と題して、ヒノキ板を使用した、クギを使わない、竹串を用いたはめ込み式で組立て、接着して完成させるタイプの小箱作りキットを準備しました。

私たちの生活のあらゆるシーンで欠かせない木や木材、その中の人工林の2大スターでもあるヒノキの板を使って木工工作をすることや、ヒノキの由来、特徴を簡単に説明し、その後、作り方や注意点を説明して





から小箱作りをしました。  
 そして、みんなの小箱の枡の形が出来たところで作業を一旦中断し、貼り付けた接着剤が乾くのを待つ間に、ヒノキ板の端材やスギの輪切り等を使用した木工クラフトを自由製作しました。  
 最後に、接着剤が乾いたので、紙やすりで擦って角を取ったり、小箱に思い思いに絵を描いたり、貝殻や木片、ビーズ等で飾り付けをし、「ハッピー小箱」を完成させました。  
 終わりに児童達から、「いろいろ選べる物があって、めっちゃ楽しかった。また、作りたい」「夏休みの宿題工作ができてうれしい」などの感想とお礼の挨拶がありました。  
 今回の森林環境教育を通して児童達には、森林の大切さを知ってもらい、木材に楽しく親しんでもらえたと思います。



八束小学校で製作の様子



蕨岡小学校でハッピー小箱作り等の説明の様子



三浦小学校で、うみのこども中谷さんの説明の様子



中筋小学校で製作の様子



大用小学校でうんこドリルで勉強の様子



竹島小学校で製作の様子

## 香美市子どもエコクラブ の子供たちへ森林教室を 実施

〈高知中部森林管理署〉

高知中部森林管理署では、香美市子どもエコクラブから環境学習の一環で、「山の管理・保護活動の大切さを理解し、森林をみんなで守っていく」という気持ちを高めたい」との講師依頼を受け、8月7日、香美市立中央公民館大ホールで①森林管理署の業務紹介、②50〜100年単位の循環可能な産業としての林業の一連作業紹介（伐採・植付・保育・伐採）、③丸太切り体験・木工等の森林教室を実施しました。

香美市子どもエコクラブは「シカ食害から物部の森を守ろう！」「eat・go・no・choice」（レッツクール！チョイス！）を活動テーマに、会員の小中高生と大人のサポーターが、みやびの丘（東熊山38林班）での植樹、下刈り等の山を守る活動や環境・リサイクル問題を実験・調査を通して考え、エコ啓発に取り組み活動等を行っており、今回は、夏休み中の小学生を中心に20名が参加しました。座学では、普段活動しているみや

びの丘の上空からのドローン動画、シカの食害・罠いワナでの捕獲の瞬間映像、ツキノワグマ親子映像等を興味深く見ていました。

特に林業作業紹介での、巨大な魚梁瀬スギの伐倒↓造材↓へり集材↓市売り↓製材の映像には驚き見入っていました。

また体験学習では、昔実際に使用していた大鋸や鉞まさかりの実物を見た子供たちはその大きさに驚き、身長以上ある刃物と記念撮影も行っていました。

丸太切り体験は、のこぎりを使用したことがある子供が少なく、刃物の扱いを説明してから実践に入りました。実際に丸太を切り始めると悪戦苦闘していました。が徐々にコツを掴んでいき、全員無事に丸太を切ることが出来ました。

木工は「森の動物たち」をテーマにあらかじめ加工してあった木材を組み合わせて、フクロウやクマ、ウサギなどを作成していました。



大鋸と記念撮影



座学の様子

クラブの子供たちからは「丸太切りが初めてで楽しかった」「もっと色々な種類の動物を作りたい」などの声が上がっていました。

これからも地域の子供たちが、森林・林業をより身近に感じてもらうよう取り組みを続けていきたいと思えます。



木作業の様子



丸太切り体験